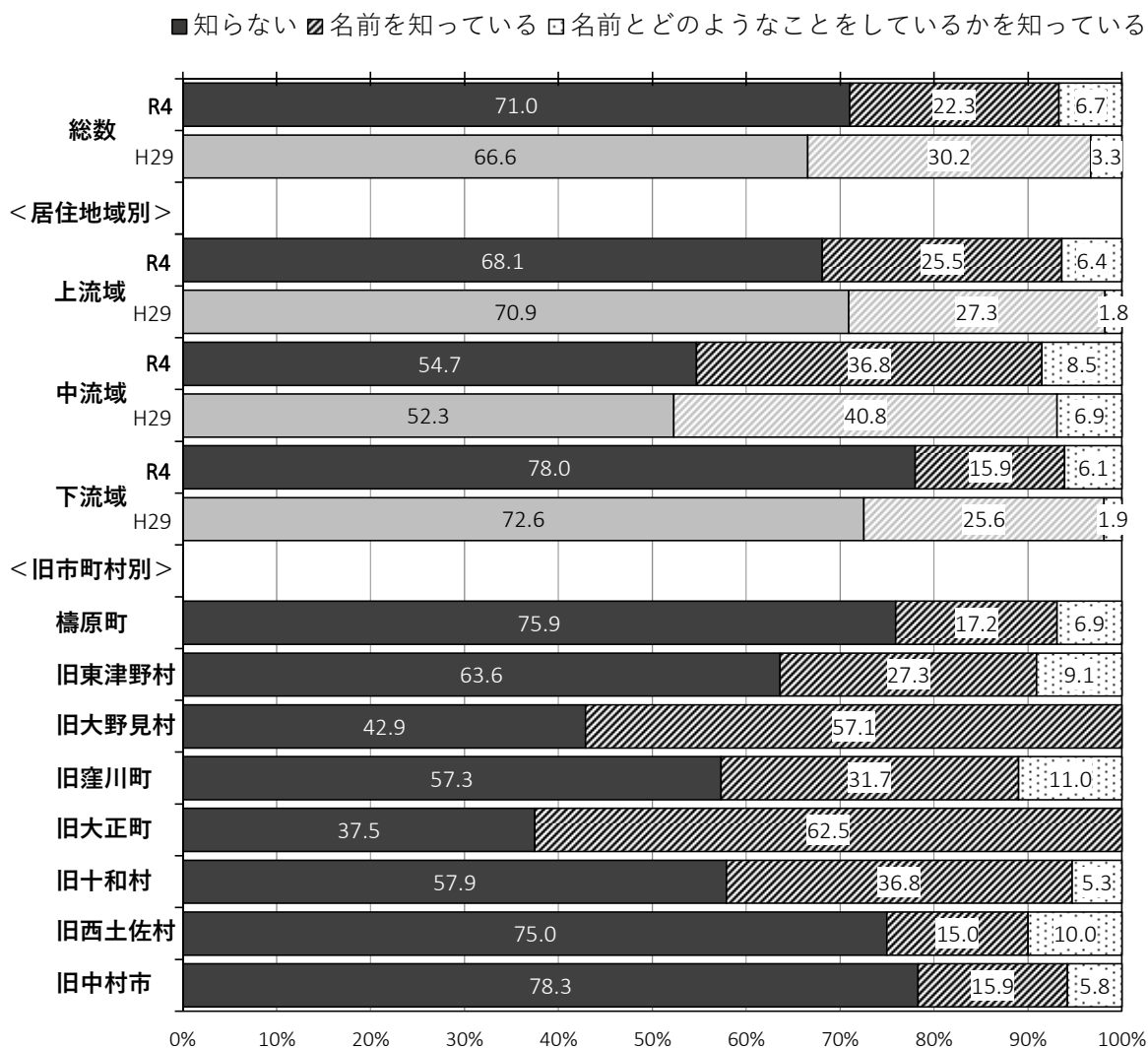


第4章 結果の概要

1. 四万十川の保全に対する取組

問1 あなたは、「公益財団法人四万十川財団」という組織をご存知ですか。(1つだけ○印)

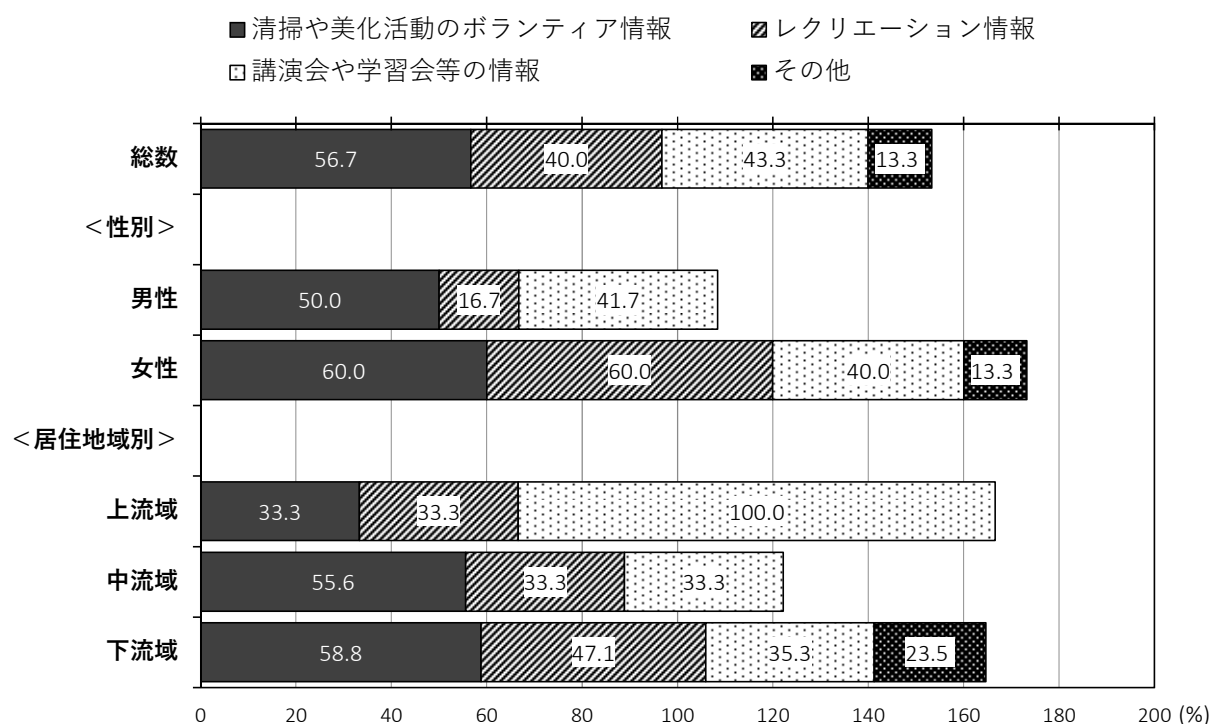
- ・「知らない」と答えた人の割合は71.0%を占め、前回調査と比較して4.4ポイント増加しており、知名度の低下がうかがえたものの、「名前とどのようなことをしているか知っている」と答えた人の割合は3.4ポイント増加した。
- ・財団の事務所がある中流域では45.3%の『知名度』(「名前を知っている」+「名前とどのようなことをしているかを知っている」)があるものの、上流域では31.9%、下流域では22.0%の『知名度』にとどまることから、『知名度』が低い地域への周知が課題である。
- ・旧大正町は『知名度』が62.5%と最も高く、一方で、旧中村市は21.7%、檮原町は24.1%、旧西土佐村は25.0%と『知名度』が低くなった。



問1で「名前とどのようなことをしているかを知っている」と答えた方にお聞きします。

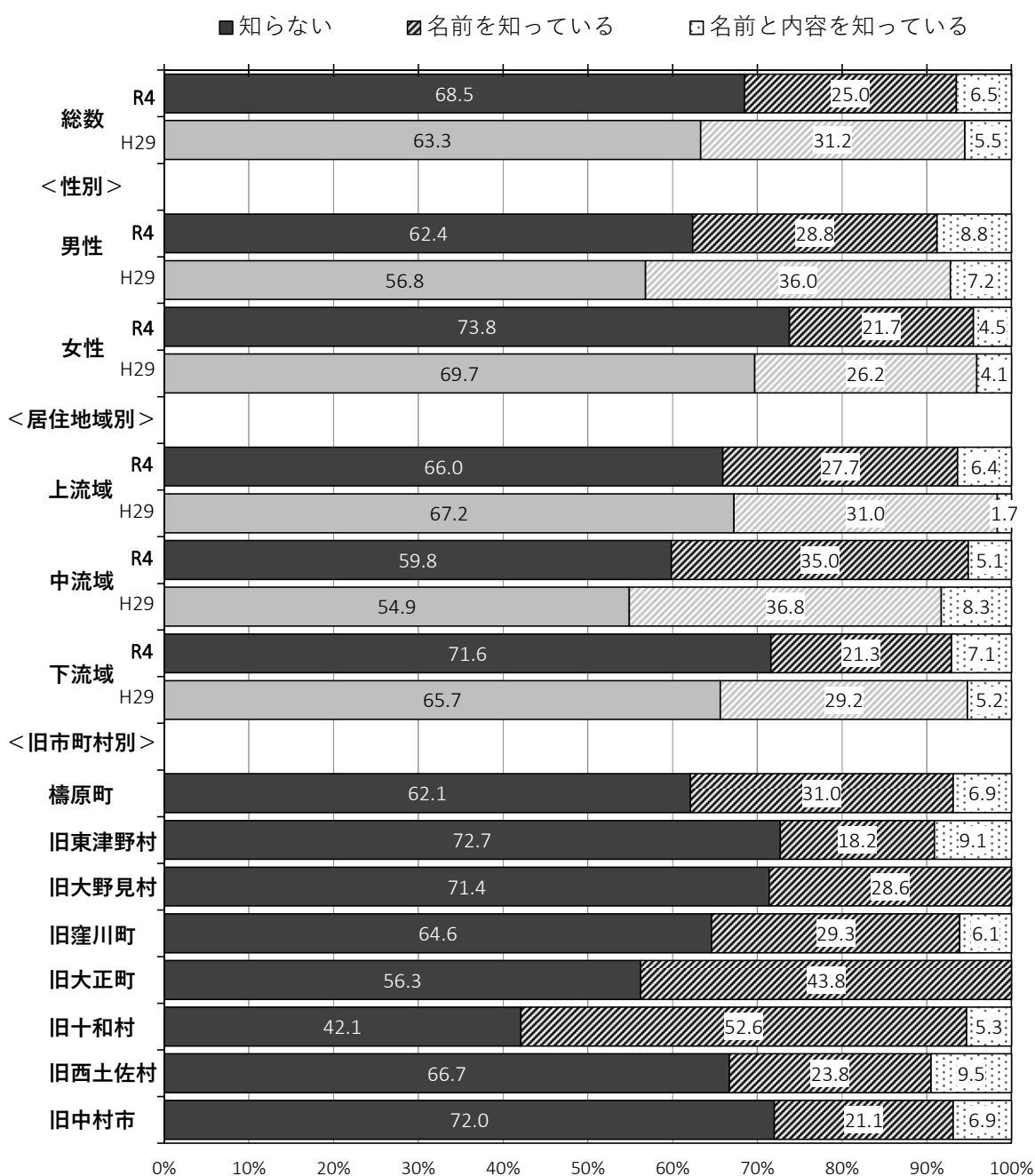
問2 あなたが四万十川について、「公益財団法人四万十川財団」に情報発信してほしい内容を選んでください。(あてはまるもの全てに○印)

- ・「清掃や美化活動のボランティア情報」と答えた人の割合は56.7%と最も高く、次いで「講演会や学習会等の情報」が43.3%、「レクリエーション情報」が40.0%、「その他」が13.3%であった。
- ・上流域では「講演会や学習会等の情報」が100.0%、中流域と下流域では「清掃や美化活動のボランティア情報」が5割以上と最も高く、地域によって求めている情報に特徴があることがわかった。



問3 あなたは、「四万十川条例（正式名称：高知県四万十川の保全及び流域の振興に関する基本条例）」をご存知ですか。（1つだけ○印）

- ・「知らない」と答えた人の割合は68.5%を占め、前回調査と比較して5.2ポイント増加した。
- ・「知らない」と答えた人の割合は、男性が62.4%で、女性が73.8%と男性より女性の方が1割以上知名度が低くなった。
- ・中流域では40.1%の『知名度』（「名前を知っている」+「名前と内容を知っている」）があるものの、上流域では34.1%、下流域では28.4%の『知名度』にとどまることから、『知名度』が低い地域への周知が課題である。
- ・旧十和村では57.9%と『知名度』が最も高く、一方で、旧東津野村では27.3%、旧中村市では28.0%、旧大野見村では28.6%と『知名度』が低くなった。

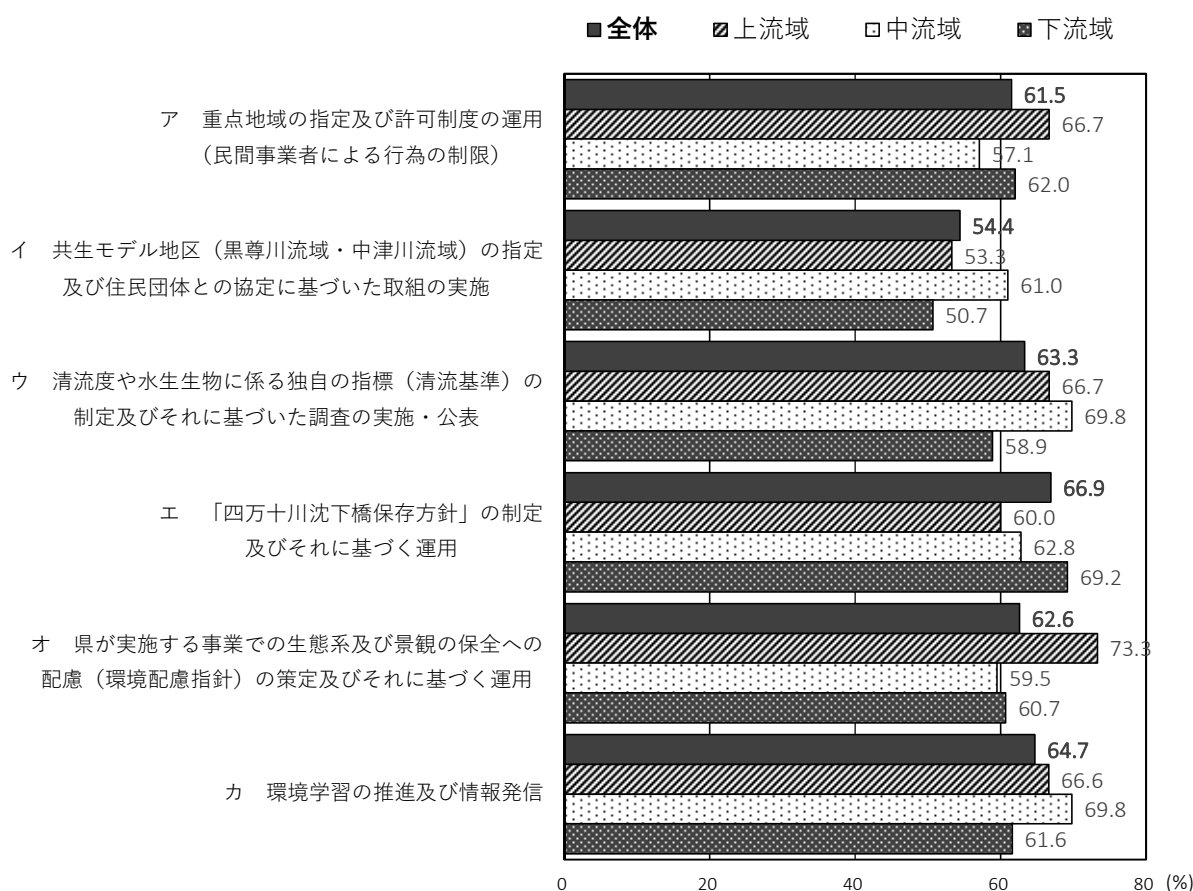


問3で「名前を知っている」又は「名前と内容を知っている」と答えた方にお聞きます。

問4 あなたは、四万十川条例の取組が四万十川流域の保全と振興に効果があったと思いますか。ア～カのそれぞれについて、あてはまる番号に1つだけ○印をつけてください。

- ・全6項目中、『そう思う』（「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」）と答えた割合が最も高かったのは、「四万十川沈下橋保存方針」の制定及びそれに基づく運用」が66.9%で、次いで「環境学習の推進及び情報発信」が64.7%、「清流度や水生生物に係る独自の指標（清流基準）の制定及びそれに基づいた調査の実施・公表」が63.3%となっており、全ての項目で『そう思う』は5割以上であった。
- ・上流域では、「県が実施する事業での生態系及び景観の保全への配慮（環境配慮指針）の策定及びそれに基づく運用」への『そう思う』の割合が高い傾向が見受けられた。
- ・中流域では、「重点地域の指定及び許可制度の運用」について『そう思う』と答えた割合が低い一方、「清流度や水生生物に係る独自の指標（清流基準）の制定及びそれに基づいた調査の実施・公表」への『そう思う』の割合が高い傾向が見受けられた。
- ・下流域では、「四万十川沈下橋保存方針」の制定及びそれに基づく運用」への『そう思う』の割合が高く、地域によって四万十川条例の取組に対する効果への認識に違いがあった。

「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を
合わせた【そう思う】と答えた割合



- ・各設問での旧市町別の特色として、「重点地域の指定及び許可制度の運用」では、旧窪川町、旧東津野村で効果について「どちらともいえない」の割合が高くなった。「清流度や水生生物に係る独自の指標（清流基準）の制定及びそれに基づいた調査の実施・公表」では、旧十和村、檮原町での『そう思う』の割合が高くなった。

「重点地域の指定及び許可制度の運用」

単位=(%) 網掛け= 高い割合		そう思う	どちらとも いえない	そう思わない
上 流 域	檮原町	63.7	36.4	0.0
	旧東津野町	50.0	50.0	0.0
	旧大野見村	100.0	0.0	0.0
中 流 域	旧窪川町	52.0	44.0	4.0
	旧大正町	57.2	42.9	0.0
	旧十和村	70.0	20.0	10.0
下 流 域	旧西土佐村	57.2	42.9	0.0
	旧中村市	62.5	38.3	4.2

「清流度や水生生物に係る独自の指標（清流基準）の制定及びそれに基づいた調査の実施・公表」

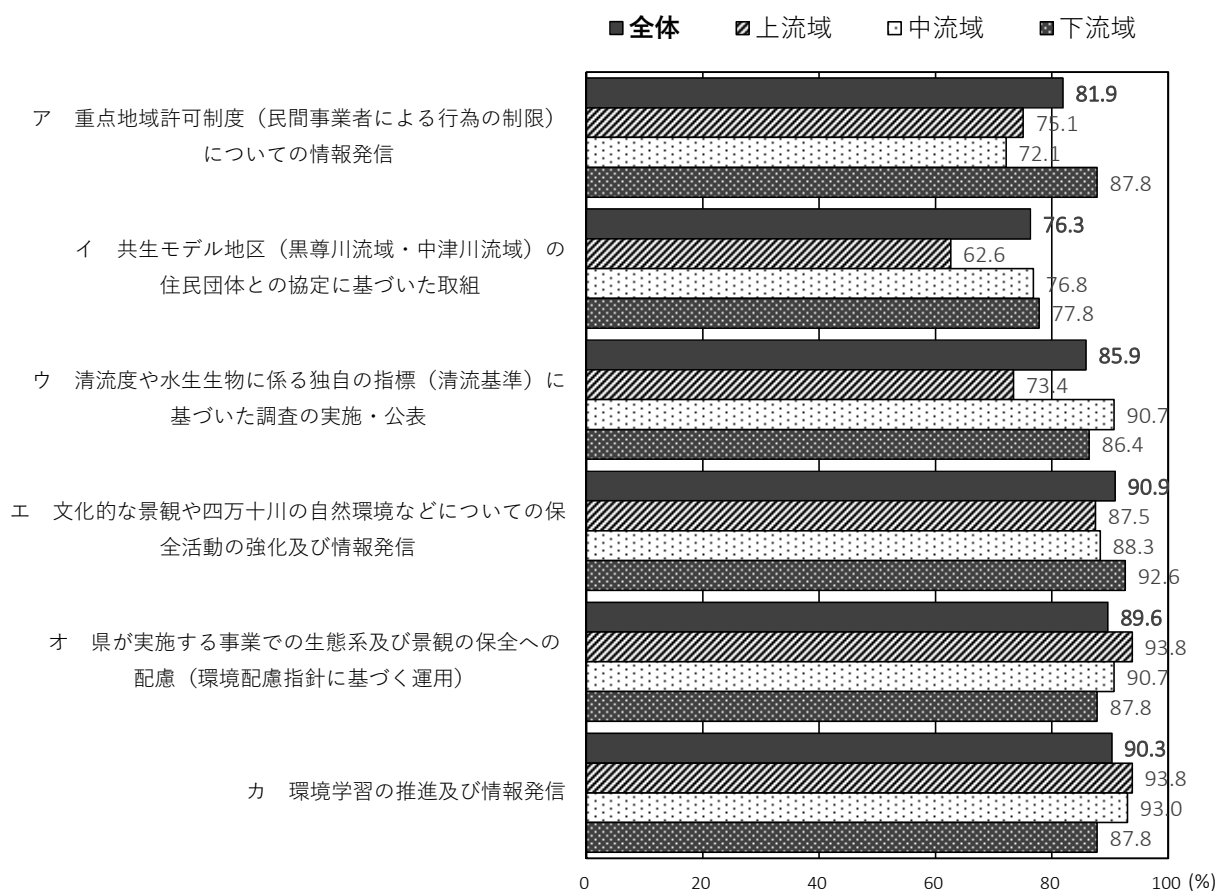
単位=(%) 網掛け= 高い割合		そう思う	どちらとも いえない	そう思わない
上 流 域	檮原町	72.8	27.3	0.0
	旧東津野町	50.0	50.0	0.0
	旧大野見村	50.0	50.0	0.0
中 流 域	旧窪川町	68.0	28.0	4.0
	旧大正町	57.1	28.6	14.3
	旧十和村	81.8	18.2	0.0
下 流 域	旧西土佐村	57.2	28.6	14.3
	旧中村市	59.1	32.4	8.4

問3で「名前を知っている」又は「名前と内容を知っている」と答えた方にお聞きします。

問5 あなたは、四万十川流域の保全と振興をより進めるためには、どのような取組の強化・内容の充実が必要だと思いますか。ア～カのそれぞれについて、あてはまる番号に1つずつ○印をつけてください。

- ・『必要』（「必要」＋「どちらかといえば必要」）と答えた割合は、全ての項目で7割以上であった。全6項目中、『必要』と答えた割合が最も高かったのは、「文化的な景観や四万十川の自然環境などについての保全活動の強化及び情報発信」の90.9%で、次いで「環境学習の推進及び情報発信」が90.3%、「県が実施する事業での生態系及び景観の保全への配慮（環境配慮指針に基づく運用）」が89.6%であった。
- ・上流域では、「共生モデル地区（黒尊川流域・中津川流域）の住民団体との協定に基づいた取組」や「清流度や水生生物に係る独自の指標（清流基準）に基づいた調査の実施・広報」の項目について『必要』と答えた割合が低くなっている傾向が見受けられた。「重点地域許可制度（民間事業者による行為の制限）についての情報発信」の項目について、中流域では『必要』と答えた割合が低くなっている一方、下流域では『必要』と答えた割合が高くなっていることが見受けられた。

「必要」と「どちらかといえば必要」を
合わせた【必要】と答えた割合



- ・各設問での旧市町別の特色として、「文化的な景観や四万十川の自然環境などについての保全活動の強化及び情報発信」及び「環境学習の推進及び情報発信」が、いずれも旧東津野村、旧大野見村、旧大正町、旧西土佐村で『必要』の割合は100.0%と高くなっている。

「文化的な景観や四万十川の自然環境などについての保全活動の強化及び情報発信」

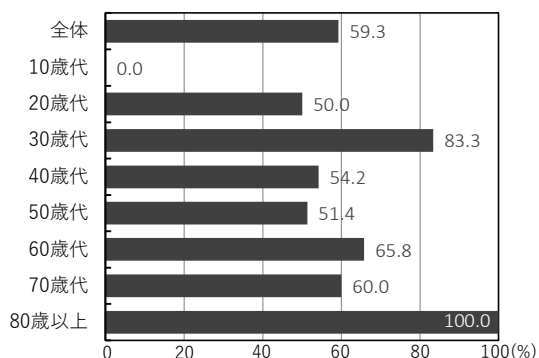
単位=(%) 網掛け= 高い割合		必要	どちらとも いえない	不必要
上 流 域	禰原町	81.8	18.2	0.0
	旧東津野町	100.0	-	0.0
	旧大野見村	100.0	-	0.0
中 流 域	旧窪川町	84.7	11.5	3.8
	旧大正町	100.0	-	0.0
	旧十和村	90.0	10.0	0.0
下 流 域	旧西土佐村	100.0	-	0.0
	旧中村市	91.9	6.8	1.4

「環境学習の推進及び情報発信」

単位=(%) 網掛け= 高い割合		必要	どちらとも いえない	不必要
上 流 域	禰原町	91.0	9.1	0.0
	旧東津野町	100.0	-	0.0
	旧大野見村	100.0	-	0.0
中 流 域	旧窪川町	92.3	7.7	0.0
	旧大正町	100.0	-	0.0
	旧十和村	90.0	10.0	0.0
下 流 域	旧西土佐村	100.0	-	0.0
	旧中村市	86.7	12.0	1.3

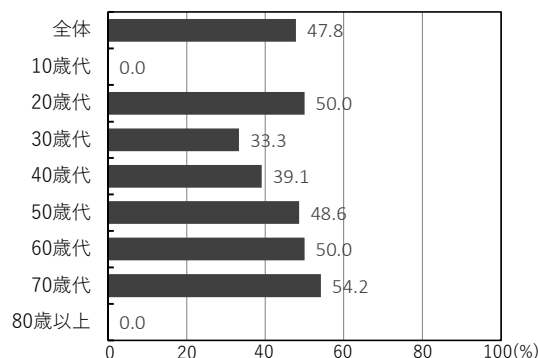
- ・四万十川条例の取組（全6項目）について、四万十川流域の保全と振興に効果があったかについて『そう思う』と回答し、かつ、取組の強化・内容の充実が『必要』と答えた人の割合は、「四万十川沈下橋保存方針」の制定及びそれに基づく運用／文化的な景観や四万十川の自然環境などについての保全活動の強化及び情報発信」が64.7%と最も高く、次いで「環境学習の推進及び情報発信」が63.3%、「県が実施する事業での生態系及び景観の保全への配慮（環境配慮指針）の策定及びそれに基づく運用／県が実施する事業での生態系及び景観の保全への配慮（環境配慮指針に基づく運用）」が60.4%といずれも6割以上であった。
- ・「四万十川沈下橋保存方針」の制定及びそれに基づく運用／文化的な景観や四万十川の自然環境などについての保全活動の強化及び情報発信」は20歳代（75.0%）と70歳代（70.4%）がその他の年代と比べて高くなった。
- ・「重点地域の指定及び許可制度の運用（民間事業者による行為の制限）／重点地域許可制度（民間事業者による行為の制限）についての情報発信」は30歳代（83.3%）と80歳以上（100.0%）がその他の年代と比べて高くなった。

【効果】重点地域の指定及び許可制度の運用（民間事業者による行為の制限）
【必要】重点地域許可制度（民間事業者による行為の制限）についての情報発信



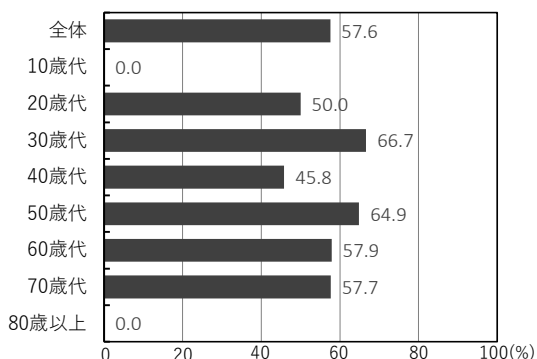
【効果】共生モデル地区（黒尊川流域・中津川流域）の指定及び住民団体との協定に基づいた取組の実施

【必要】共生モデル地区（黒尊川流域・中津川流域）の住民団体との協定に基づいた取組



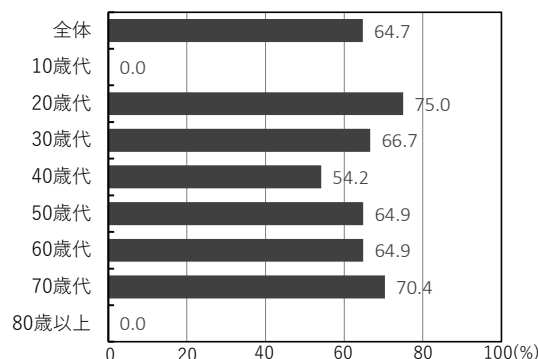
【効果】清流度や水生生物に係る独自の指標（清流基準）の制定及びそれに基づいた調査の実施・公表

【必要】清流度や水生生物に係る独自の指標（清流基準）に基づいた調査の実施・公表



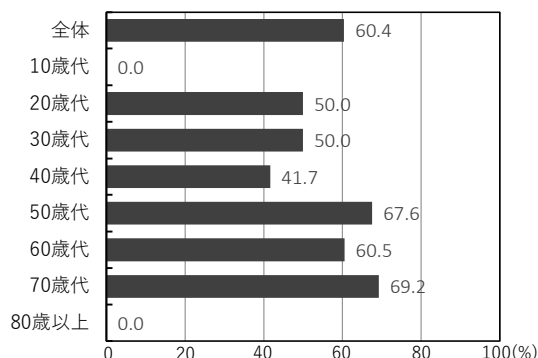
【効果】「四万十川沈下橋保存方針」の制定及びそれに基づく運用

【必要】文化的な景観や四万十川の自然環境などについての保全活動の強化及び情報発信



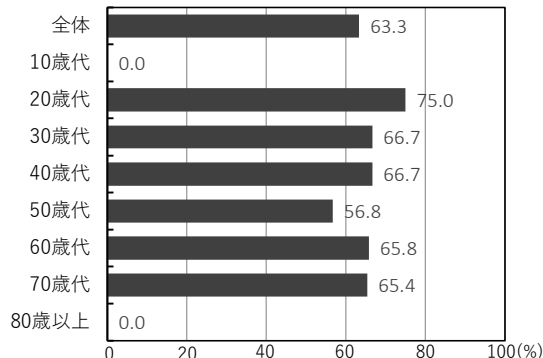
【効果】 県が実施する事業での生態系及び景観の保全への配慮（環境配慮指針）の策定及びそれに基づく運用

【必要】 県が実施する事業での生態系及び景観の保全への配慮（環境配慮指針）に基づく運用



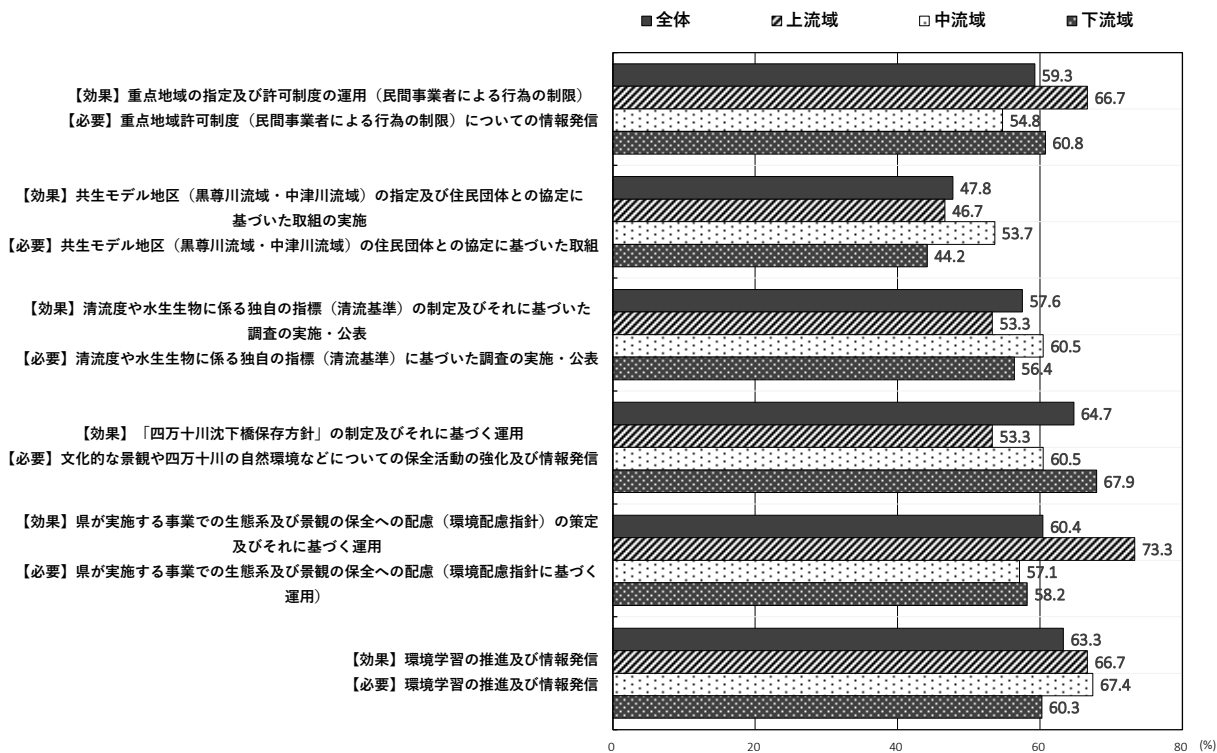
【効果】 環境学習の推進及び情報発信

【必要】 環境学習の推進及び情報発信



- ・下流域では「四万十川沈下橋保存方針」の制定及びそれに基づく運用／文化的な景観や四万十川の自然環境などについての保全活動の強化及び情報発信」が67.9%と、その他の流域と比べて高くなった。
- ・上流域では「県が実施する事業での生態系及び景観の保全への配慮（環境配慮指針）の策定及びそれに基づく運用／県が実施する事業での生態系及び景観の保全への配慮（環境配慮指針に基づく運用）」が73.3%、中流域では「環境学習の推進及び情報発信」が67.4%とそれぞれ高くなった。

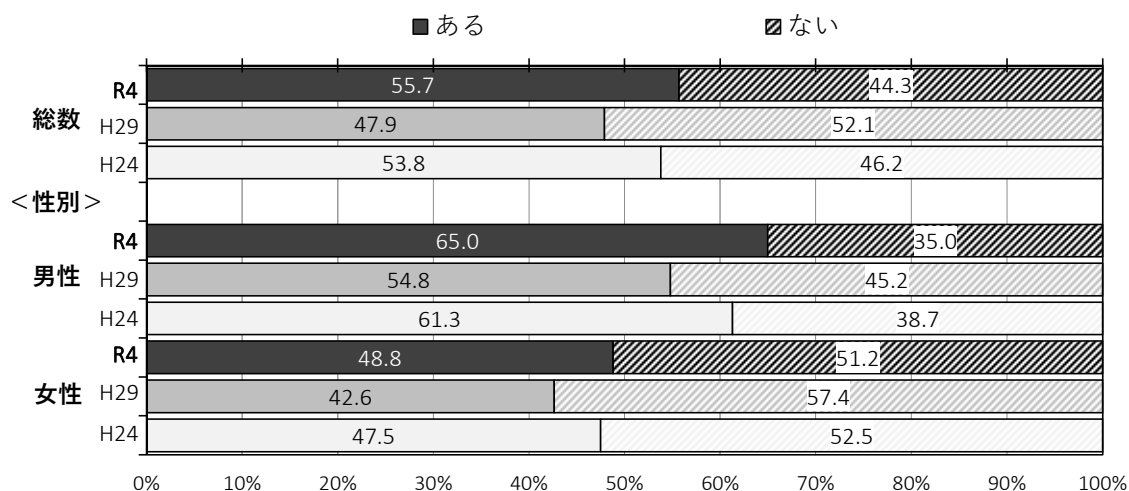
「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた【そう思う】と答えて、かつ「必要」と「どちらかといえば必要」を合わせた【必要】と答えた割合



2. 四万十川との関わり

問6 あなたは、この1年間に仕事以外で川にでかけたことがありますか。(1つだけ○印)

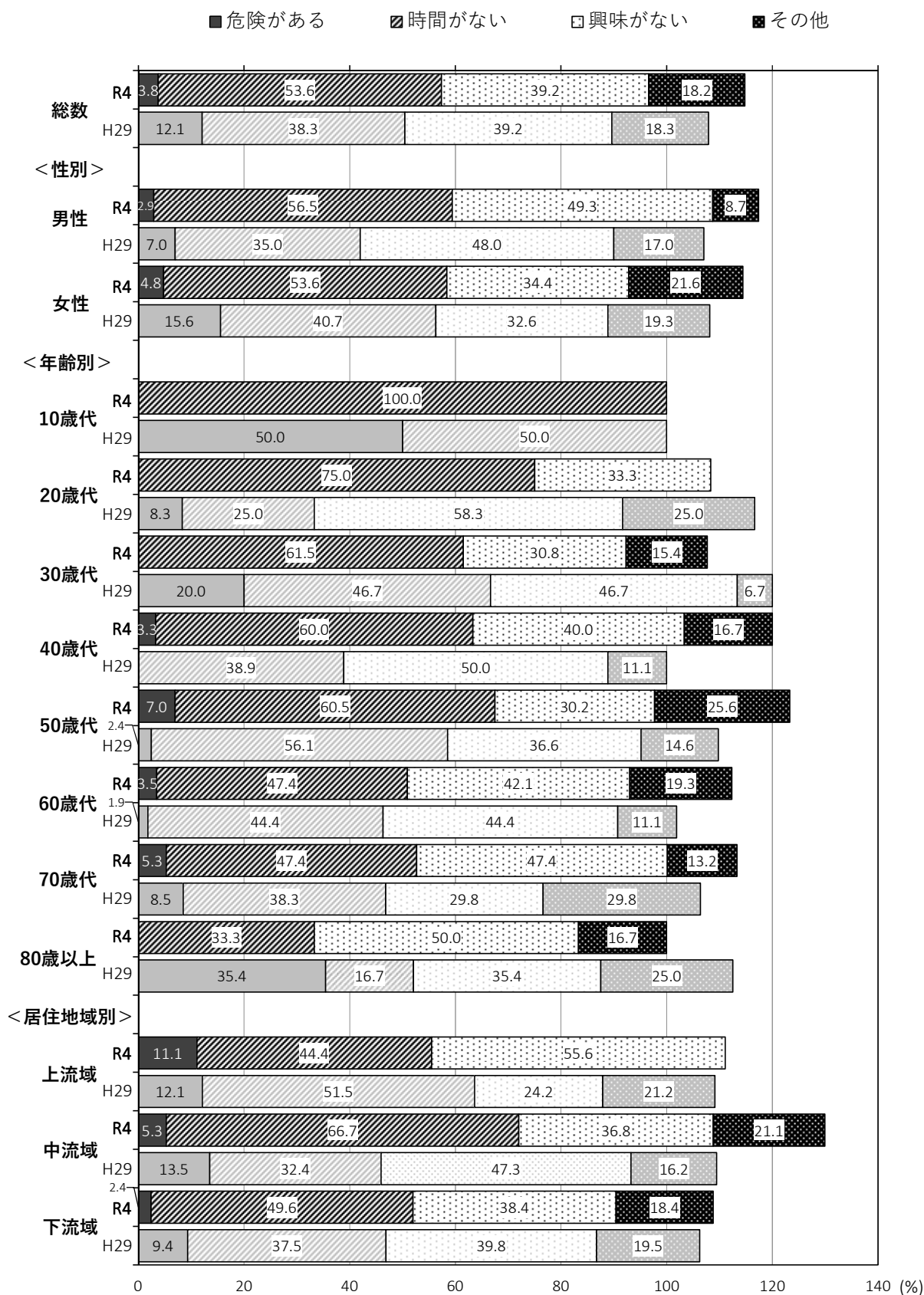
- ・川に出かけたことが「ある」と答えた人の割合は、55.7%（前回：47.9%・前々回：53.8%）と直近3回の調査の中で最も高くなった。
- ・川に出かけたことが「ある」と答えた人の割合は、男性が65.0%、女性が48.8%と、女性より男性の方が川に出かける人の割合が2割程度高くなった。



問6で「ない」と答えた方にお聞きします。

問7 問6で「ない」と答えた理由を選んでください。(あてはまるもの全てに○印)

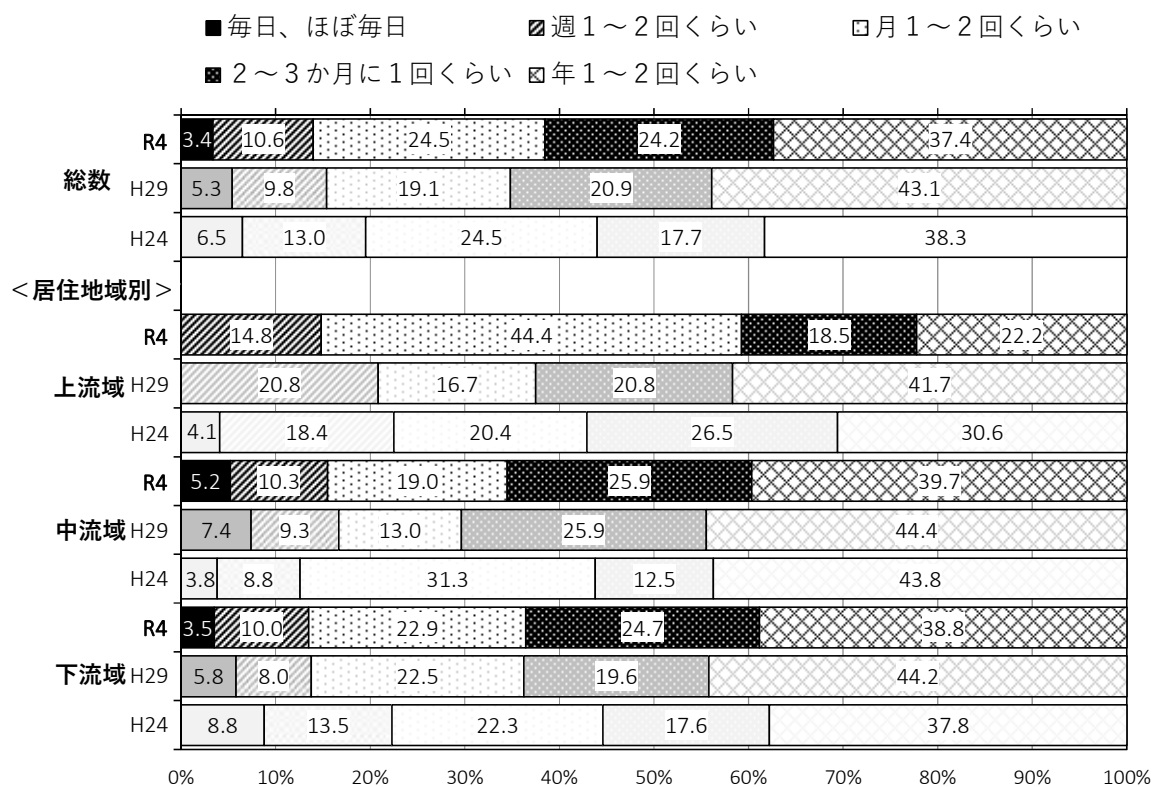
- ・「時間がない」と答えた人の割合は53.6%（前回：38.3%）と前回調査から15.3ポイント増加し最も高く、次いで「興味がない」が39.2%（前回：39.2%）となった。
- ・男女ともに「時間がない」と答えた人の割合は5割以上と最も高く、男性では「興味がない」と答えた人の割合が49.3%と比較的高くなった。また、女性では「その他」で「(川にでかける)用事がない・機会がない・理由がない」等の意見があった。
- ・60歳代以下では「時間がない」と答えた人の割合が最も高く、70歳代以上では「興味がない」と答えた人の割合が最も高くなった。
- ・中流域と下流域では「時間がない」と答えた人の割合が最も高く、上流域では「興味がない」と答えた人の割合が最も高くなった。



問6で「ある」と答えた方にお聞きします。

問8 あなたは、この1年間にどれくらい川にでかけましたか。(1つだけ○印)

- ・「年1～2回くらい」と答えた人の割合が37.4%（前回：43.1%）で最も高く、次いで「月1～2回くらい」が24.5%で、「2～3か月に1回くらい」が24.2%と続いている。
- ・「月1～2回くらい」の24.5%と「週1～2回くらい」の10.6%と「毎日、ほぼ毎日」の3.4%を合わせると38.5%（前回：34.2%、前々回：44.0%）が『月に1～2回くらい』以上は川に出かけており、前回調査から4.3ポイント増加したが、前々回よりも5.5ポイント減少した。
- ・『月に1～2回くらい』以上と答えた人の割合は、上流域が59.2%（前回：37.5%、前々回：42.9%）と直近3回の調査で割合が最も高くなったものの、上流域では「毎日、ほぼ毎日」と答えた人の割合は0.0%（前回：0.0%、前々回：4.1%）であった。また、中流域と下流域では『月に1～2回くらい』以上と答えた人の割合はいずれも4割以下であった。



問6で「ある」と答えた方にお聞きします。

問9 あなたは、この1年間に川で、何をしましたか。(あてはまるもの全てに○印)

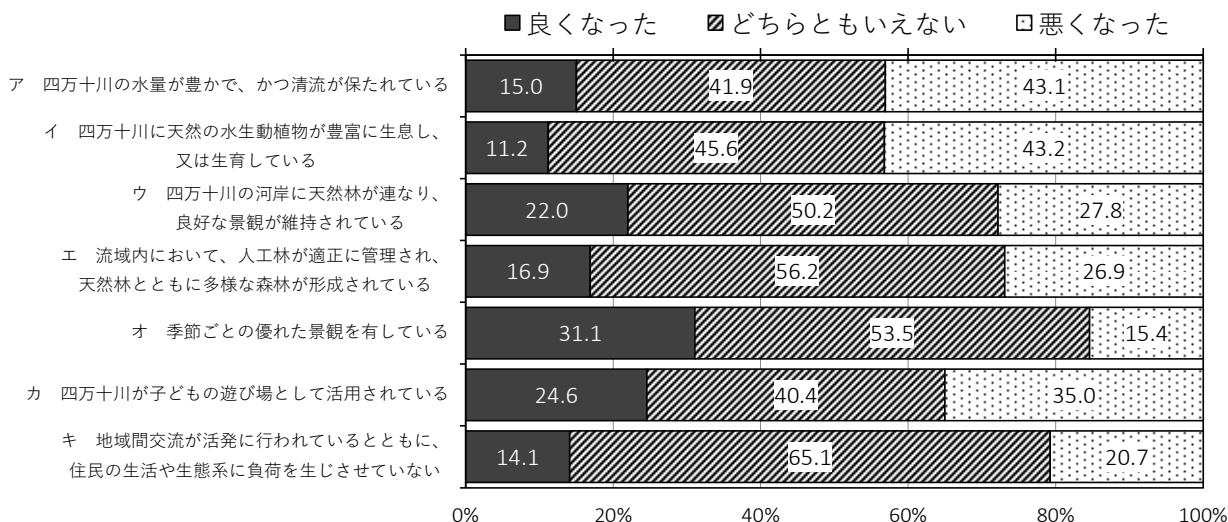
- ・「散歩、ジョギング、散策」と答えた人の割合は56.4%と最も高く、次いで「水泳、水遊び」33.3%であった。
- ・川に出かけた頻度別では、いずれの頻度も「散歩、ジョギング、散策」と答えた人の割合が最も高く、特に毎日、ほぼ毎日では88.9%と最も高く、「アユ以外の釣り、魚とり」「アユ釣り、アユとり」と答えた人は週に1～2回以上と川に出かける頻度は高いことがうかがえる。

単位=(%) 網掛け=		散歩、ジョギング、散策	水泳、水遊び	清掃活動などのボランティア活動	アユ以外の釣り、魚とり	キャンプ、バーベキュー	その他	野草摘み(花摘み、山菜採りなど)	アユ釣り、アユとり	ボート、カヌーなど
	1位									
	2位									
全体		56.4	33.3	17.0	14.4	11.7	11.7	10.2	9.1	5.3
川に出かけた頻度別	毎日、ほぼ毎日	88.9	-	11.1	33.3	-	22.2	22.2	22.2	11.1
	週1～2回くらい	57.1	32.1	14.3	25.0	7.1	7.1	21.4	32.1	10.7
	月1～2回くらい	73.0	31.7	14.3	12.7	20.6	15.9	14.3	9.5	3.2
	2～3か月に1回くらい	62.5	37.5	25.0	18.8	15.6	10.9	6.3	1.6	6.3
	年1～2回くらい	39.4	35.4	15.2	8.1	6.1	9.1	6.1	6.1	4.0

問6で「ある」と答えた方にお聞きします。

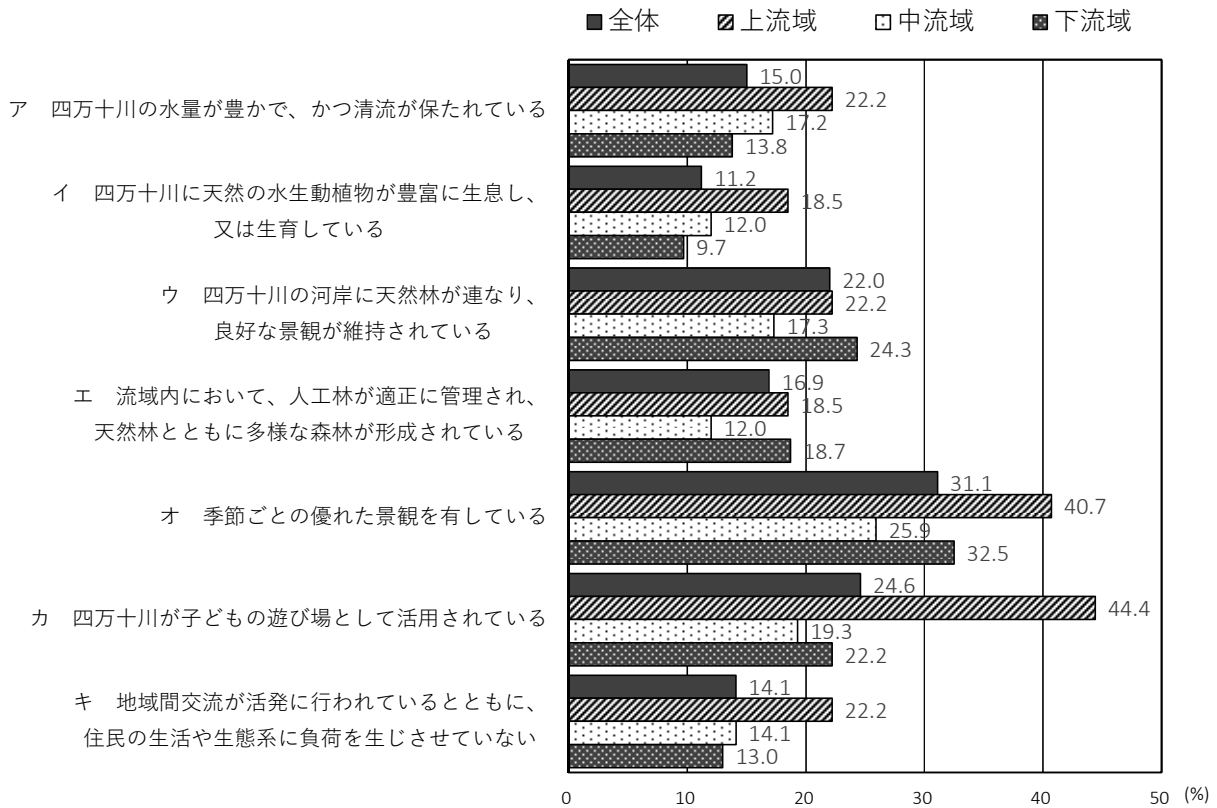
問10 あなたは、四万十川的环境や景観等について、以前に比べて変化があったと思いますか。ア～キのそれぞれについて、あてはまる番号に1つずつ○印をつけてください。

- ・全7項目中、『良くなった』（「良くなった」+「どちらかといえば良くなった」）が『悪くなった』（「悪くなった」+「どちらかといえば悪くなった」）を上回ったのは、「季節ごとの優れた景観を有している」の1項目のみで、『良くなった』と答えた人の割合は31.1%であった。
- ・『悪くなった』と答えた人の割合が最も高かったのは「四万十川に天然の水生动植物が豊富に生息し、又は生育している」の43.2%で、次いで「四万十川の水量が豊かで、かつ清流が保たれている」が43.1%、「四万十川が子どもの遊び場として活用されている」が35.0%であった。

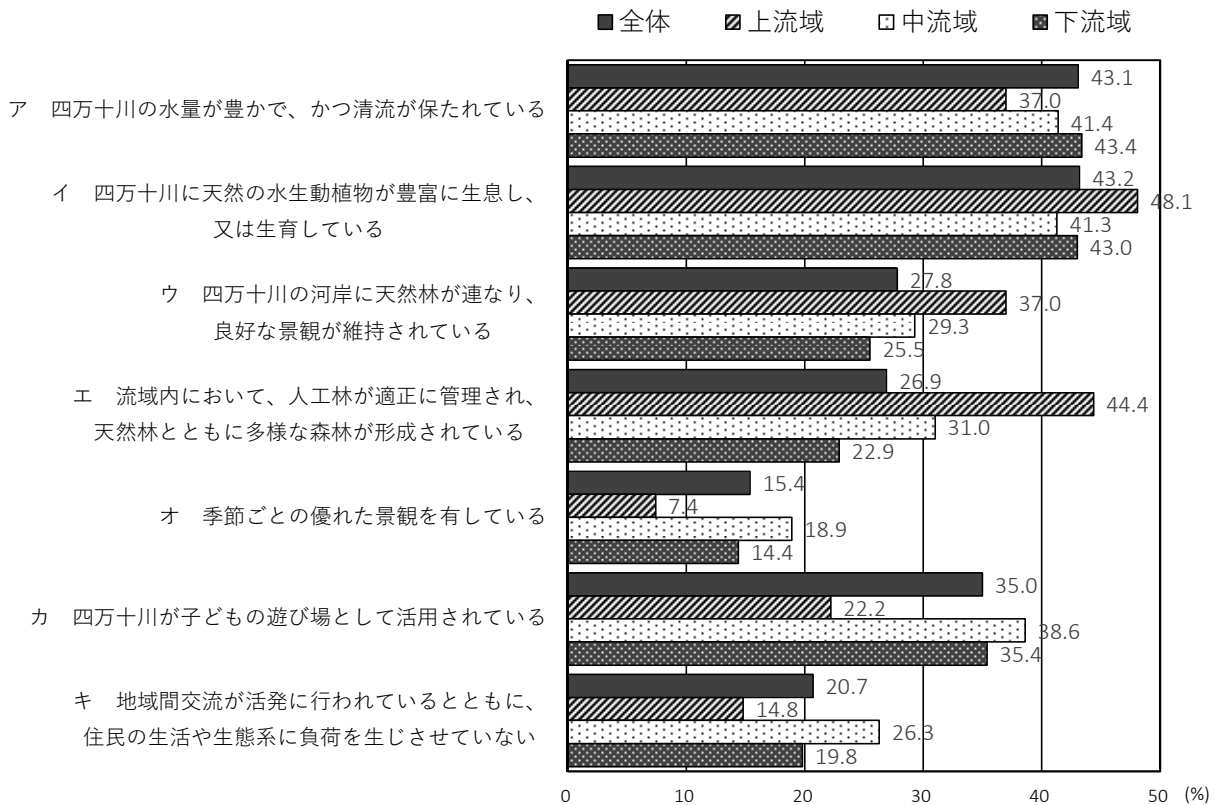


- ・全流域で『悪くなった』と答えた人の割合が『良くなった』を最も上回ったのは、「四万十川に天然の水生动植物が豊富に生息し、又は生育している」（上流域：29.6ポイント差・中流域：29.3ポイント差・下流域：33.3ポイント差）で、次いで上流域では「流域内において、人工林が適正に管理され、天然林とともに多様な森林が形成されている」（25.9ポイント差）、中流域及び下流域では「四万十川の水量が豊かで、かつ清流が保たれている」（中流域：24.2ポイント差・下流域：29.6ポイント差）であった。
- ・川に出かけた頻度別では、「週1～2回くらい」以下においては「季節ごとの優れた景観を有している」で『良くなった』と答えた人の割合が高く、一方で、「毎日、ほぼ毎日」では7項目全てで『悪くなった』と答えた人の割合が高くなった。特に「四万十川が子どもの遊び場として活用されている」で77.7%と最も高くなった。
- ・「川で何をしたか」別では、「アユ釣り、アユとり」以外では「季節ごとの優れた景観を有している」と答えた人の割合は『良くなった』が『悪くなった』を上回っており、特に「キャンプ、バーベキュー」では『良くなった』が48.4%と最も高くなった。
- ・「アユ釣り、アユとり」では7項目全てで『悪くなった』が『良くなった』を上回っており、特に「四万十川の水量が豊かで、かつ清流が保たれている」と「四万十川に天然の水生动植物が豊富に生息し、又は生育している」と「四万十川の河岸に天然林が連なり、良好な景観が維持されている」が『悪くなった』と答えた人の割合が5割以上と高くなった。
- ・「清掃活動などのボランティア活動」においても「四万十川に天然の水生动植物が豊富に生息し、又は生育している」が『悪くなった』と答えた人の割合が54.5%と最も高くなった。
- ・これらのことから、景観面以外は悪くなったと感じる割合が高く、特に、アユ釣り等の目的で川に出かける頻度が高く、川と密接に生活している人たちは、四万十川の水量や水生动植物への影響を感じていることがうかがえる。

「良くなった」と「どちらかといえば良くなった」
を合わせた【良くなった】と答えた割合



「悪くなった」と「どちらかといえば悪くなった」
を合わせた【悪くなった】と答えた割合



<第4章 結果の概要>

単位=(%) 網掛け=		「良くなった」と「どちらかといえば良くなった」を合わせた【良くなった】と答えた割合						
1位		ア 四万十川の水量が豊かで、かつ清流が保たれている	イ 四万十川に天然の水生動植物が豊富に生息し、又は生育している	ウ 四万十川の河岸に天然林が連なり、良好な景観が維持されている	エ 流域内において、人工林が適正に管理され、天然林とともに多様な森林が形成されている	オ 季節ごとの優れた景観を有している	カ 四万十川が子どもの遊び場として活用されている	キ 地域間交流が活発に行われているとともに、住民の生活や生態系に負荷を生じさせていない
2位								
全体		15.0	11.2	22.0	16.9	31.1	24.6	14.1
川に出かけた頻度別	ほぼ毎日	11.1	22.2	11.1	11.1	22.2	11.1	22.2
	週1~2回くらい	10.7	14.3	14.3	14.3	21.4	21.5	11.1
	月1~2回くらい	17.7	9.7	29.1	22.6	37.7	30.7	14.6
	2~3か月に1回くら	17.2	15.9	17.2	14.3	29.7	26.6	17.7
	年1~2回くらい	13.6	7.3	24.2	16.5	31.9	21.9	11.7
川で何をしたか別	散歩、ジョギング、散策	16.3	12.3	24.0	18.4	33.8	23.7	15.3
	野草摘み(花摘み、山菜採りなど)	14.8	7.4	18.5	14.8	18.5	29.6	15.4
	水泳、水遊び	16.4	10.6	25.6	17.5	35.3	33.0	19.5
	アユ釣り、アユとり	16.6	8.3	4.3	0.0	4.2	8.4	8.4
	アユ以外の釣り、魚とり	13.5	13.9	5.4	10.8	16.2	29.7	8.4
	ボート、カヌーなど	14.3	14.3	35.7	14.2	35.7	35.7	30.8
	キャンプ、バーベキュー	19.3	22.6	32.2	25.8	48.4	36.7	16.7
	清掃活動などのボランティア活動	8.8	6.8	13.3	13.3	24.4	20.0	8.9
その他	6.4	9.7	25.9	19.4	32.2	19.4	16.2	

単位=(%) 網掛け=		「悪くなった」と「どちらかといえば悪くなった」を合わせた【悪くなった】と答えた割合						
1位		ア 四万十川の水量が豊かで、かつ清流が保たれている	イ 四万十川に天然の水生動植物が豊富に生息し、又は生育している	ウ 四万十川の河岸に天然林が連なり、良好な景観が維持されている	エ 流域内において、人工林が適正に管理され、天然林とともに多様な森林が形成されている	オ 季節ごとの優れた景観を有している	カ 四万十川が子どもの遊び場として活用されている	キ 地域間交流が活発に行われているとともに、住民の生活や生態系に負荷を生じさせていない
2位								
全体		43.1	43.2	27.8	26.9	15.4	35.0	20.7
川に出かけた頻度別	毎日、ほぼ毎日	66.6	66.6	55.5	55.5	22.2	77.7	55.5
	週1~2回くらい	46.4	50.0	39.2	32.1	17.9	39.2	11.1
	月1~2回くらい	38.7	40.3	24.2	24.2	13.1	29.1	11.3
	2~3か月に1回くら	42.2	42.8	23.5	25.3	10.9	36.0	22.6
	年1~2回くらい	42.7	40.6	26.3	25.8	18.6	32.3	25.5
川で何をしたか別	散歩、ジョギング、散策	47.6	47.6	28.7	25.9	17.6	37.8	19.4
	野草摘み(花摘み、山菜採りなど)	40.7	48.1	22.2	25.9	14.8	40.7	23.1
	水泳、水遊び	31.8	35.3	24.4	19.8	8.3	23.5	11.0
	アユ釣り、アユとり	54.2	54.2	52.2	45.8	20.8	33.4	20.8
	アユ以外の釣り、魚とり	45.9	33.3	27.0	27.0	5.4	16.2	19.5
	ボート、カヌーなど	21.4	28.5	28.6	21.4	7.1	14.2	15.4
	キャンプ、バーベキュー	25.8	22.6	9.7	16.1	3.2	20.0	6.6
	清掃活動などのボランティア活動	48.9	54.5	26.6	28.9	17.8	37.8	26.7
その他	45.2	38.8	35.5	35.5	25.8	51.7	35.5	

3. 環境を守る行動や意欲

問11 あなたは、次のことがらについて、日頃どの程度行なっていますか。ア～スのそれぞれについて、あてはまる番号に1つずつ○印をつけてください。

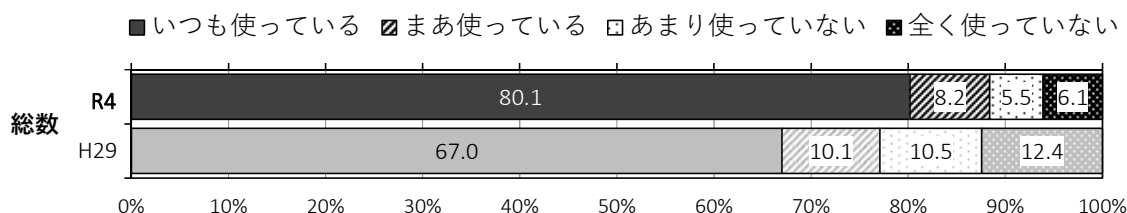
- ・前回調査では、環境を守る行動について環境省の「環境にやさしいライフスタイル実態調査（平成28年度）」との比較を行っていたが、環境省の同調査が令和元年度以降実施されておらず、近年の国の調査で比較できる項目が無かったため、今回は属性ごとの特徴について分析した。
- ・13項目中11項目において、前回調査よりも『実施率』（「いつも行っている」＋「だいたい行っている」）が減少しており、『実施率』の高い順に並べた項目ごとの順位は、第1位は「ごみは、地域のルールに従い分別して出すようにしている」が94.1%（前回：94.3%・0.2ポイント減少）、第2位が「使った油は流しから流さないようにしている」が86.2%（前回：85.4%・0.8ポイント増加）であった。一方で、「不用品をバザー、フリーマーケットなどのリサイクルに回している」と「米のとき汁やみそ汁などは流しから流さないようにしている」の『実施率』が3割未満と低くなった。
- ・80歳以上は全13項目の『実施率』の平均値が74.7%と最も高くなった。
- ・20歳代では全13項目の『実施率』の平均値が47.7%と最も低くなった。また、30歳代と40歳代の全13項目の『実施率』の平均値も全体に比べて低いことから、20歳代から40歳代への環境を守る行動や意識への啓発を行う必要がある。
- ・全ての流域において「ごみは、地域のルールに従い分別して出すようにしている」の『実施率』が最も高く、中流域は『実施率』98.3%と高くなった。
- ・上流域では「不用品をバザー、フリーマーケットなどのリサイクルに回している」が『実施率』6.6%と全体の『実施率』20.1%から13.5ポイント下回り、その他の流域と比べて『実施率』が低く、それらのイベントの開催が少ないことが理由ではないかと推測される。
- ・下流域では「風呂の残り湯は、せんとく、そうじ、庭の水やりなどに再利用している」が『実施率』27.8%で、その他の流域と比べて『実施率』が低くなった。

<第4章 結果の概要>

単位=(%) 網掛け= 	「いつも行っている」と「だいたい行っている」を合わせた【実施率】の割合												
	全体 (R4)	全体 (H29)	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳 以上	上流域	中流域	下流域
サ ごみは、地域のルールに従い分別して出すようにしている	94.1	94.3	100.0	86.7	93.9	89.9	92.6	95.5	98.8	100.0	97.7	98.3	91.6
イ 使った油は流しから流さないようにしている	86.2	85.4	100.0	86.7	81.8	85.4	83.1	87.2	90.4	100.0	93.3	87.0	85.2
シ ビン、カン、ペットボトルは分別してリサイクルに回している	84.0	88.6	100.0	60.0	84.8	70.0	80.8	88.0	95.1	100.0	93.3	95.7	77.1
コ 新聞・雑誌は、古紙回収に回している	78.0	80.3	100.0	46.6	59.4	67.1	83.2	80.4	87.6	100.0	86.4	77.5	75.9
キ 日常の生活で電気は、こまめに消している	77.3	79.7	100.0	60.0	68.7	75.2	72.6	81.2	82.9	75.0	82.3	77.8	76.6
ク 洗ざいやシャンプーなどは、余分に使わないようにしている	73.6	75.5	100.0	53.3	62.5	71.1	74.7	74.6	82.1	87.5	69.8	76.5	73.4
カ 日常の生活で節水に気をつけている	68.7	71.8	100.0	60.0	60.6	56.6	74.5	68.5	75.3	87.5	64.5	63.3	71.2
ク 省エネタイプの家庭電化製品を購入するよう心がけている	65.0	66.7	100.0	26.7	60.6	63.3	69.4	67.7	62.2	75.0	68.8	68.4	63.7
ケ 日常生活においてできるだけごみを出さないようにしている	59.3	66.9	50.0	40.0	45.4	46.6	53.7	65.1	75.6	75.0	64.5	67.5	54.8
ウ よごれのひどい食器は、ペーパータオルなどでふき取ってから洗っている	52.7	49.4	100.0	46.7	45.4	43.3	54.8	52.6	59.8	87.5	41.3	61.5	51.2
オ 風呂の残り湯は、せんたく、そうじ、庭の水やりなどに再利用している	31.7	36.4	50.0	20.0	27.3	20.2	37.9	29.3	39.5	50.0	40.0	35.1	27.8
ア 米のとぎ汁やみそ汁などは、流しから流さないようにしている	22.3	27.2	50.0	13.4	15.2	12.4	26.3	17.3	38.2	33.3	20.5	23.2	21.4
ス 不用品をバザー、フリーマーケットなどのリサイクルに回している	20.1	25.5	50.0	20.0	24.3	22.2	23.1	16.6	13.5	0.0	6.6	19.7	21.3
『実施率』の平均値	62.5	65.2	84.6	47.7	56.1	55.6	63.6	63.4	69.3	74.7	63.8	65.5	60.9

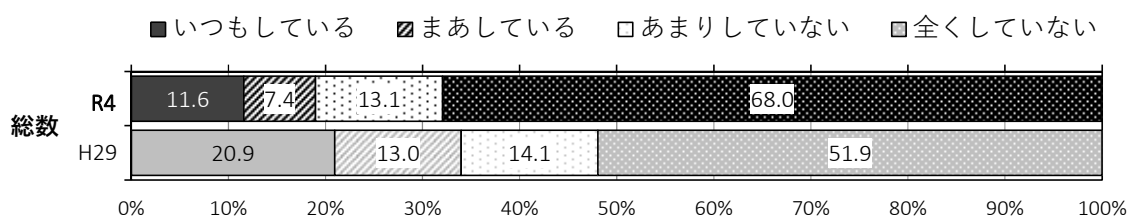
問12 あなたのご家庭では、日頃、流しの排水口や三角コーナーで水切り袋などを使っていますか。
(水切り袋が不要なシステムキッチンなどの場合は1を選んでください。)(1つだけ○印)

- ・「いつも使っている」と答えた人の割合は80.1%で、「まあ使っている」と答えた人の割合の8.2%と合わせた『使用率』は88.3% (前回: 77.1%) で11.2ポイント増加しており、水切り袋の設置等が浸透している。



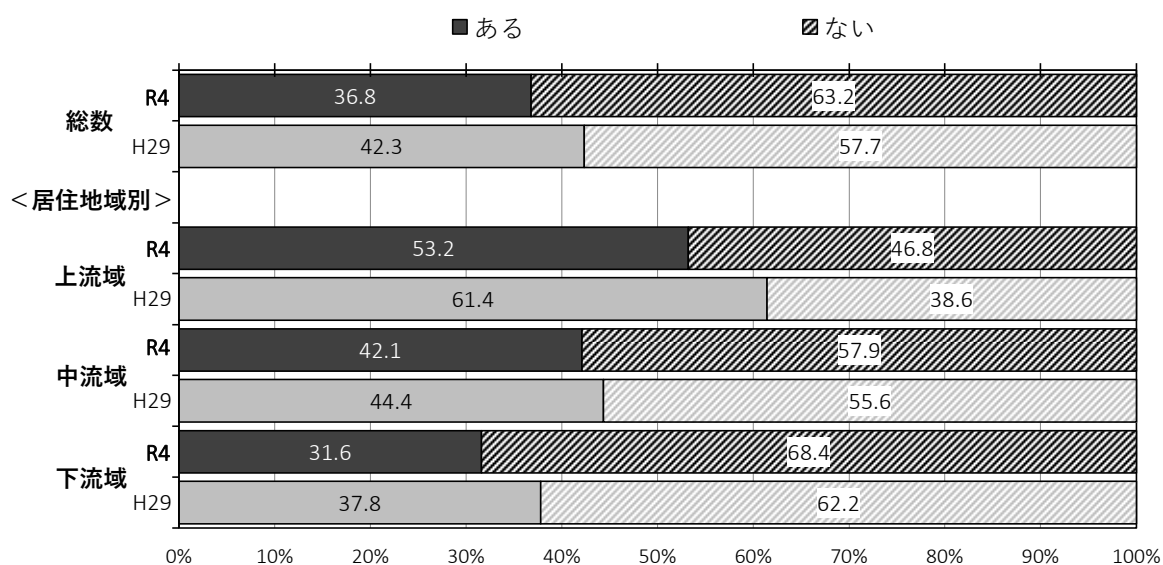
問13 あなたのご家庭では、日頃、コンポスト容器や電気式の生ごみ処理機などを利用して、家庭から出る生ごみのたい肥(ひ)化に取り組んでいますか。(1つだけ○印)

- ・「いつもしている」と答えた人の割合は11.6%で、「まあしている」と答えた人の割合の7.4%と合わせた『実施率』は19.0% (前回: 33.9%) で前回調査から14.9ポイント減少した。



問14 あなたは、講演会などの催しや、植樹、間伐(かんばつ)、リサイクル活動、美化・清掃活動など、環境に関する活動に参加したことがありますか。(1つだけ○印)

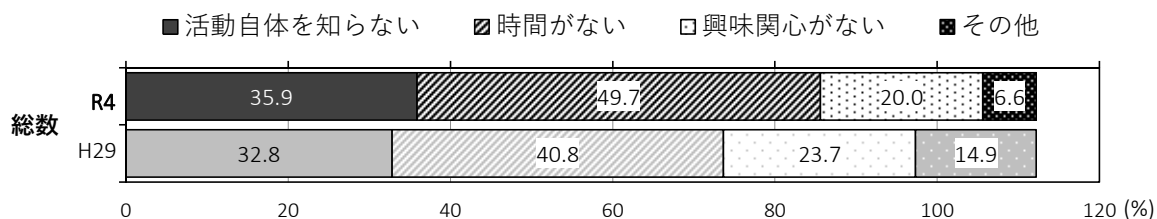
- ・「ある」と答えた人の割合は、36.8% (前回: 42.3%) と前回調査から5.5ポイント減少した。
- ・前回調査と同様に上流域になるほど「ある」と答えた人の割合が高い傾向になっている。



問 14 で「ない」と答えた方にお聞きます。

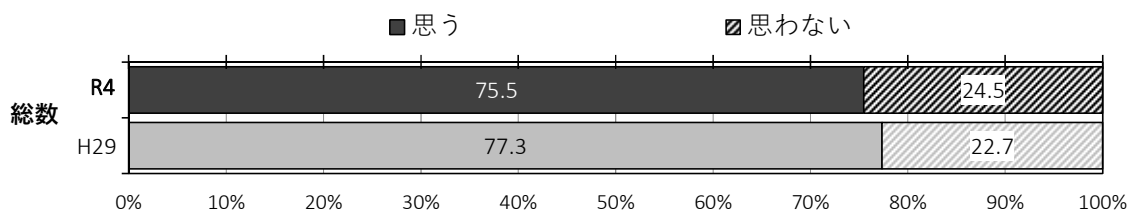
問 15 問 14 で「ない」と答えた理由をお選びください。(あてはまるもの全てに○印)

- ・「時間がない」と答えた人の割合が 49.7% (前回：40.8%) と最も高く、前回調査から 8.9 ポイント増加しており、次いで「活動自体を知らない」が 35.9% (前回：32.8%)、「興味関心がない」が 20.0% (前回：23.7%) となった。



問 16 あなたは、四万十川やその流域の環境を保全するために、例えば寄付を募(つ)のるとすれば、協力してもよいと思いますか。(1つだけ○印)

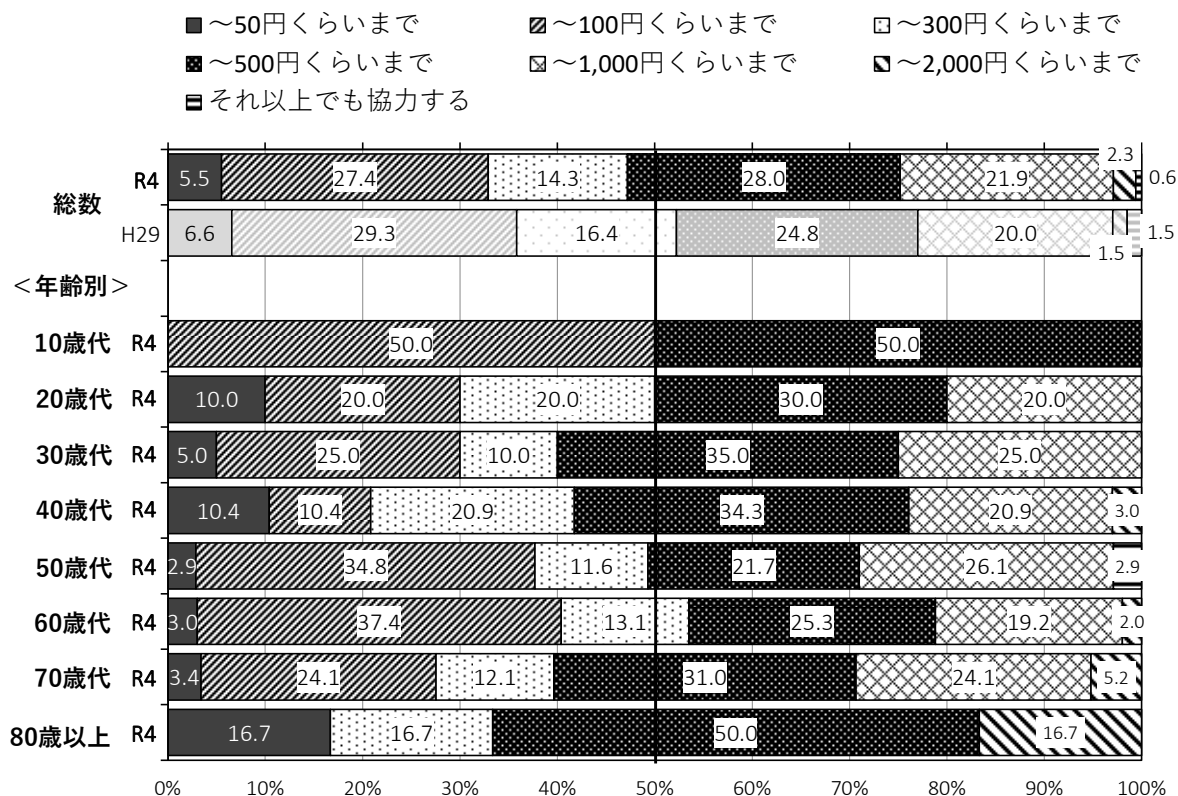
- ・「思う」と答えた人の割合は 75.5% (前回：77.3%) で、前回調査から 1.8 ポイントとやや減少した。



問16で「思う」と答えた方にお聞きします。

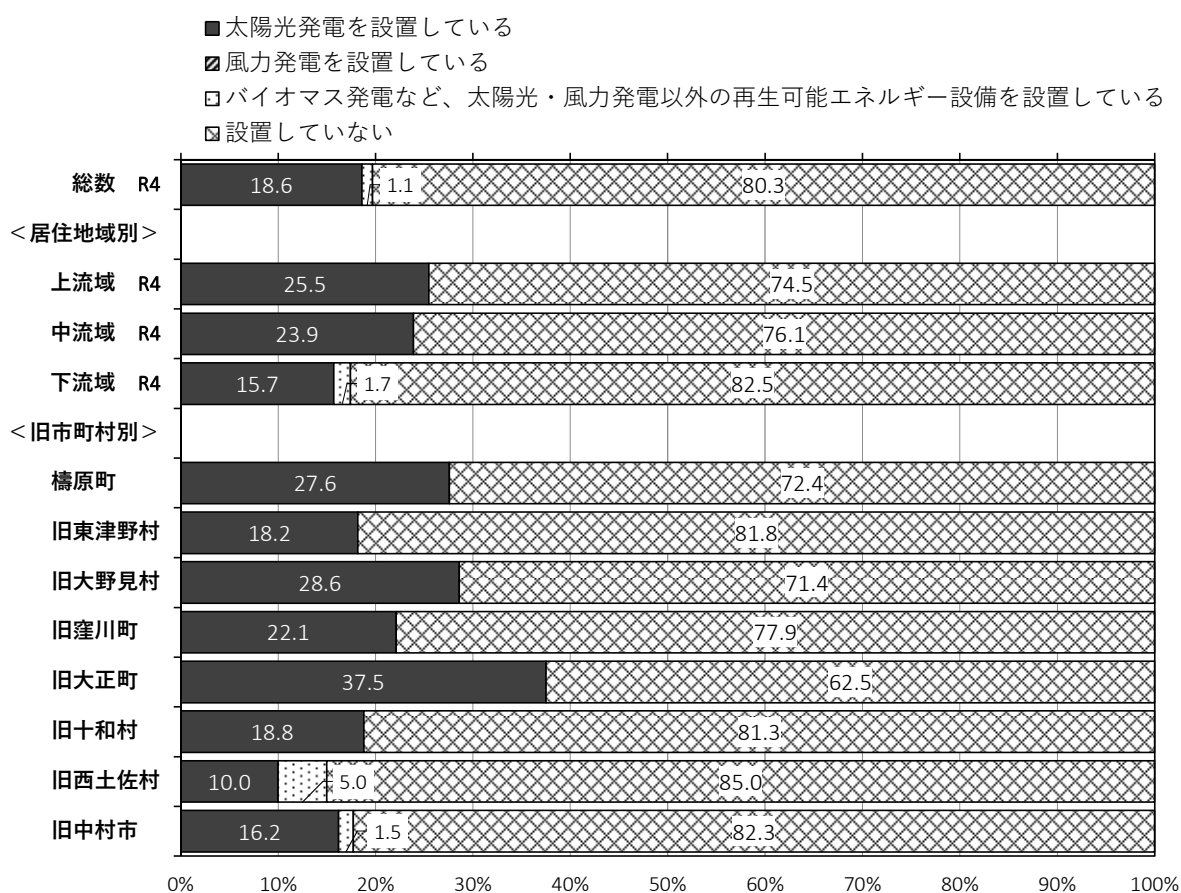
問17 では、あなたが、1か月あたり協力してもよいと思う金額は、次のどれですか。(1つだけ○印)

- ・「～500円くらいまで」以上と答えた人の割合は52.8%（前回：47.8%）と5.0ポイント増加した。
- ・「～500円くらいまで」以上と答えた人の割合は60歳代を除いた年代で5割を超えており、特に70歳代以上の高年齢層は協力してもよいと思う上限額が高くなっている傾向が見受けられた。



問18 あなたのご家庭では、環境に配慮した再生可能エネルギー設備を設置していますか。(あてはまるもの全てに○印)

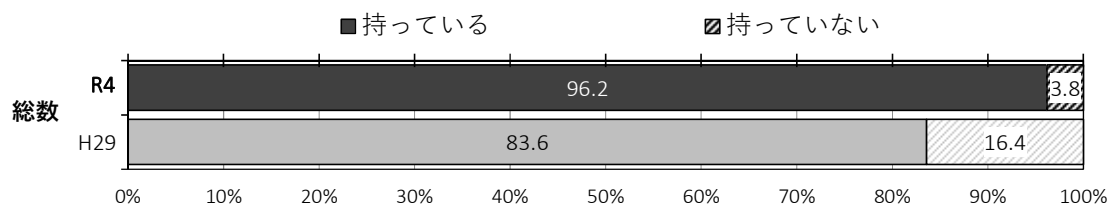
- ・「設置していない」と答えた人の割合が80.3%と最も高く、次いで「太陽光発電を設置している」18.6%、「バイオマス発電など、太陽光・風力発電以外の再生可能エネルギー設備を実施している」1.1%であった。
- ・「太陽光発電を設置している」と答えた人の割合は上流域が25.5%と最も高く、次いで中流域が23.9%、下流域が15.7%であった。
- ・旧大正町は「太陽光発電を設置している」と答えた人の割合が37.5%と最も高く、一方で、旧西土佐村は10.0%と「太陽光発電を設置している」と答えた人の割合が低くなった。



4. 通信手段について

問19 あなたは、携帯電話やスマートフォンを持っていますか。(1つだけ○印)

- ・「持っている」と答えた人の割合は96.2%で、前回調査から12.6ポイントと増加した。

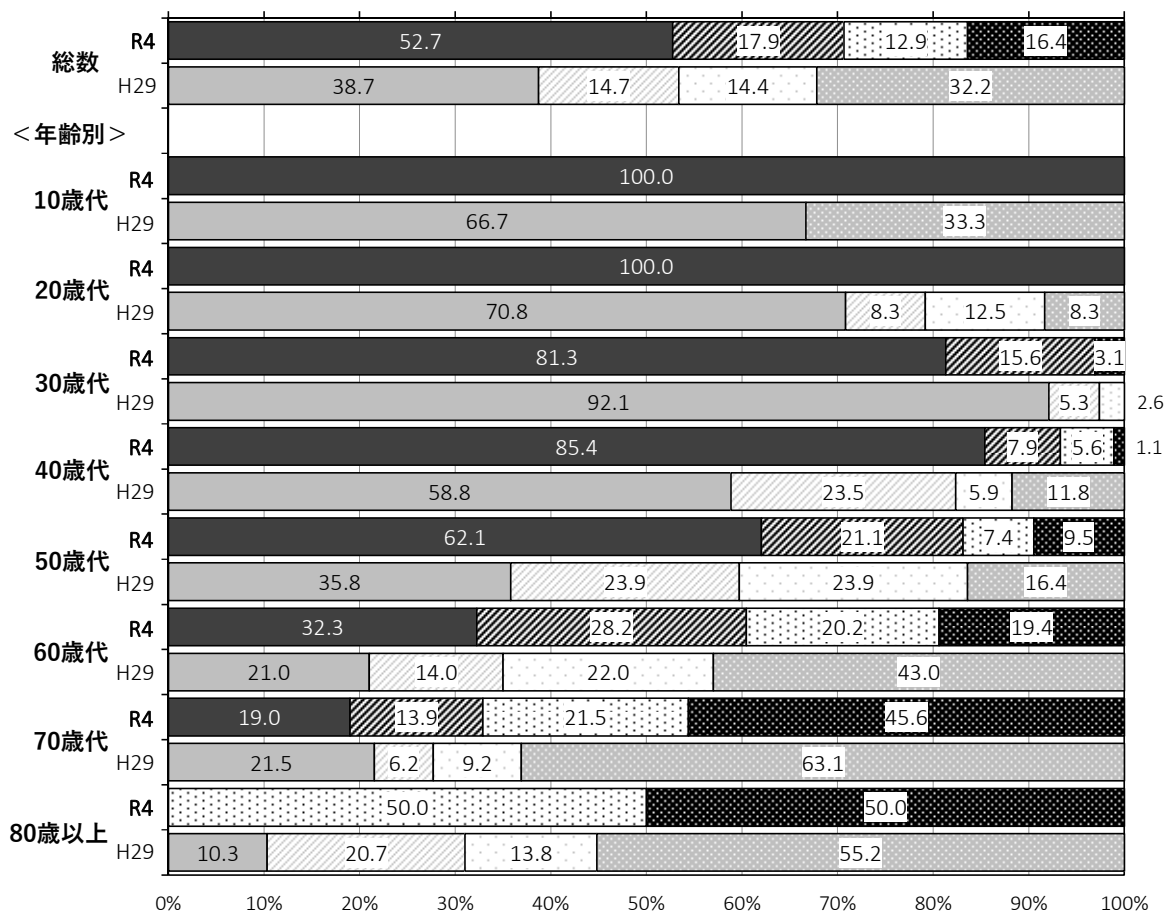


問19で「持っている」と答えた方にお聞きします。

問20 では、あなたは、日頃、携帯電話やスマートフォンなどでインターネット（メールやホームページの閲覧など）を利用していますか。(1つだけ○印)

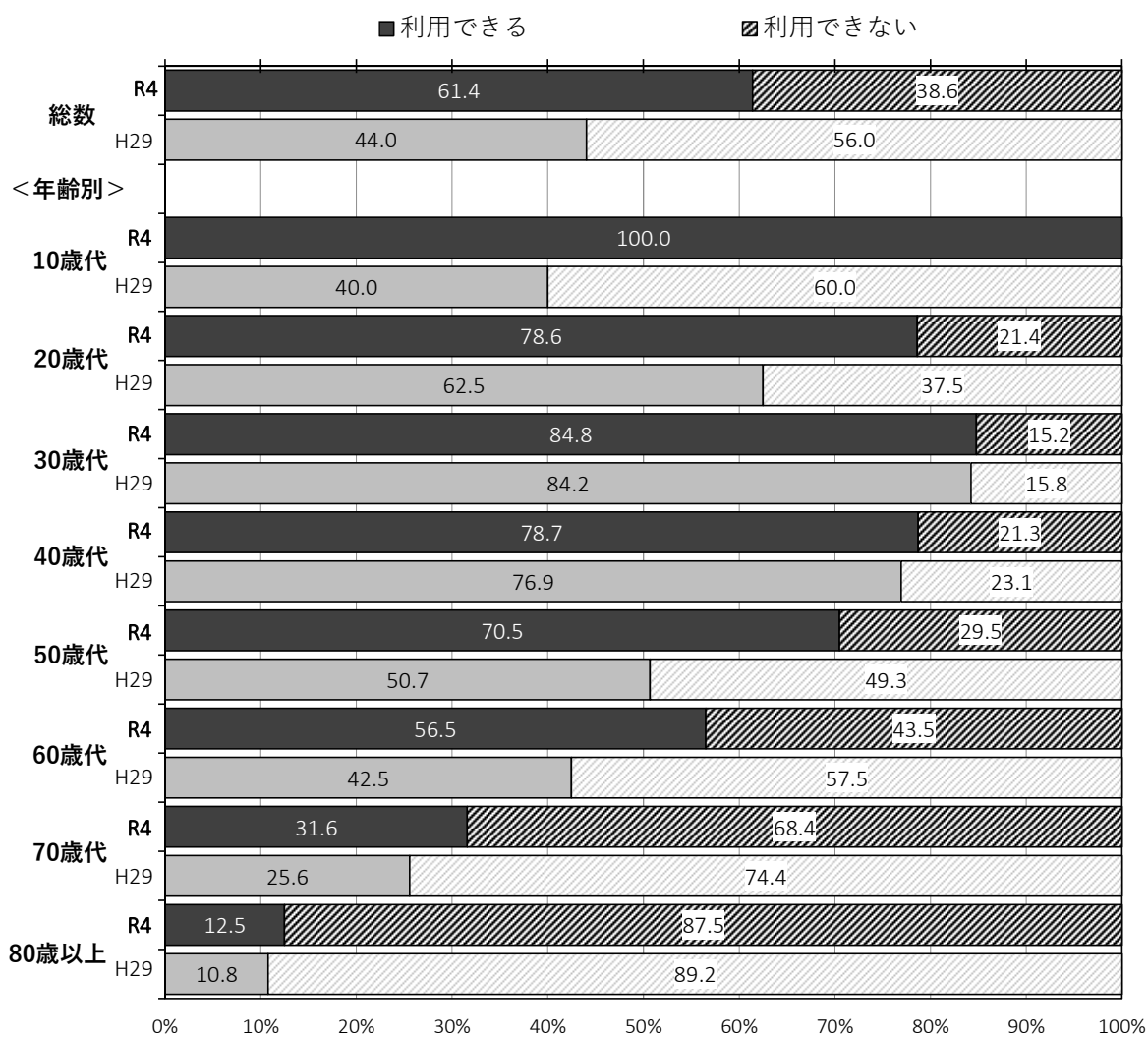
- ・「いつも利用している」と答えた人の割合は52.7%、「まあ利用している」と答えた人の割合は17.9%で、これらを合わせた『利用率』は70.6%であり、前回調査の53.4%から17.2ポイント増加した。特に「いつも利用している」と答えた人の割合が前回調査の38.7%から52.7%へと増加した。
- ・20歳代以下の『利用率』は100.0%と最も高く、年代が高くなるにつれて低くなった。

■いつも利用している ■まあ利用している □あまり利用していない ■全く利用していない



問 21 あなたのお宅では、パソコンなどでインターネット（メールやホームページの閲覧など）が利用できますか。（1つだけ○印）

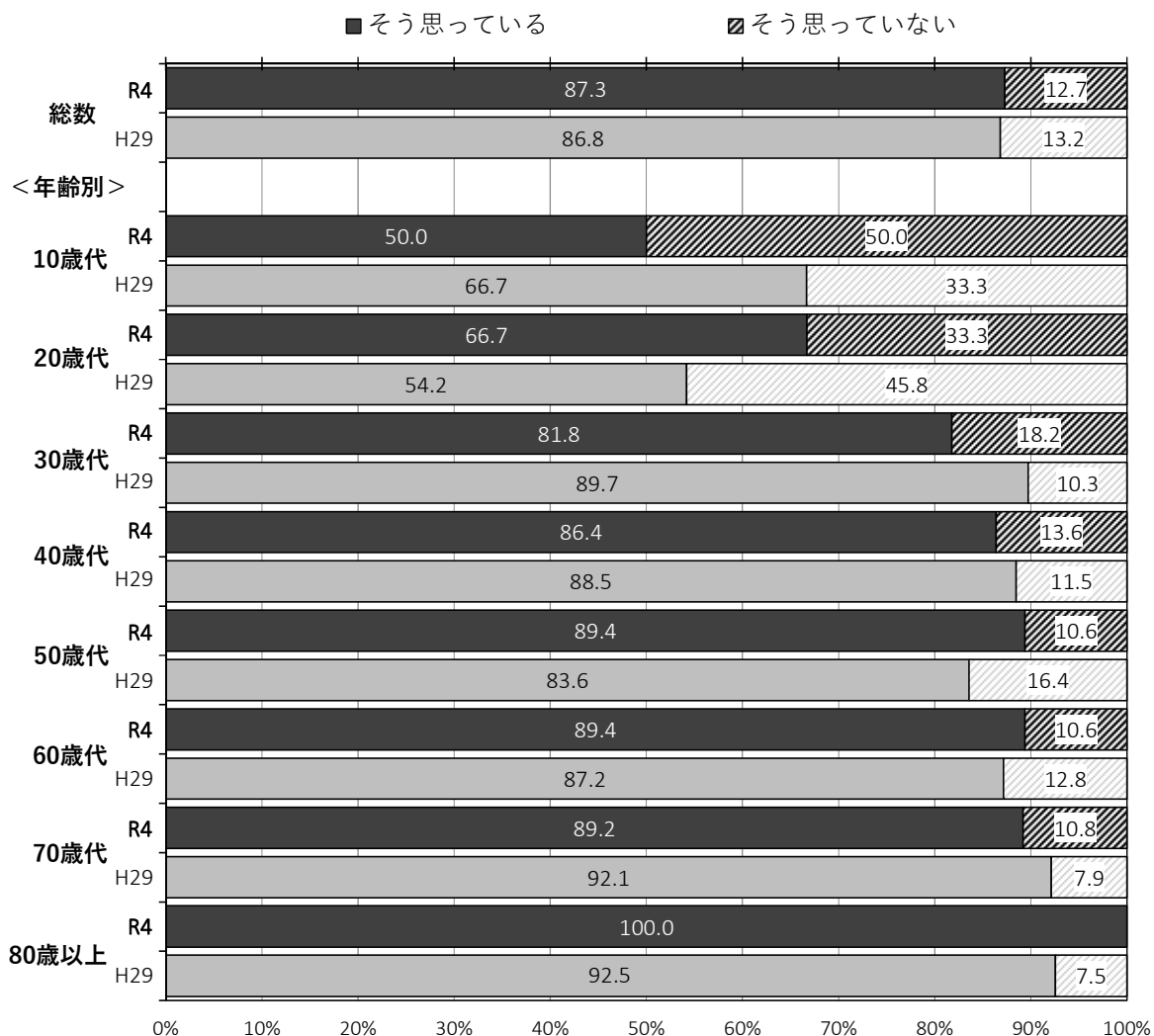
- ・「利用できる」と答えた人の割合は 61.4%（前回：44.0%）で、前回調査から 17.4 ポイント増加した。
- ・総務省が行った「令和3年通信利用動向調査」でのインターネット利用者の割合（個人）は 82.9%であり、全国と比べて普及率が 21.5 ポイント低くなった。



5. 居住意思

問 22 あなたは、今お住まいのこの地域にずっと住み続けたいと思いますか。(1つだけ○印)

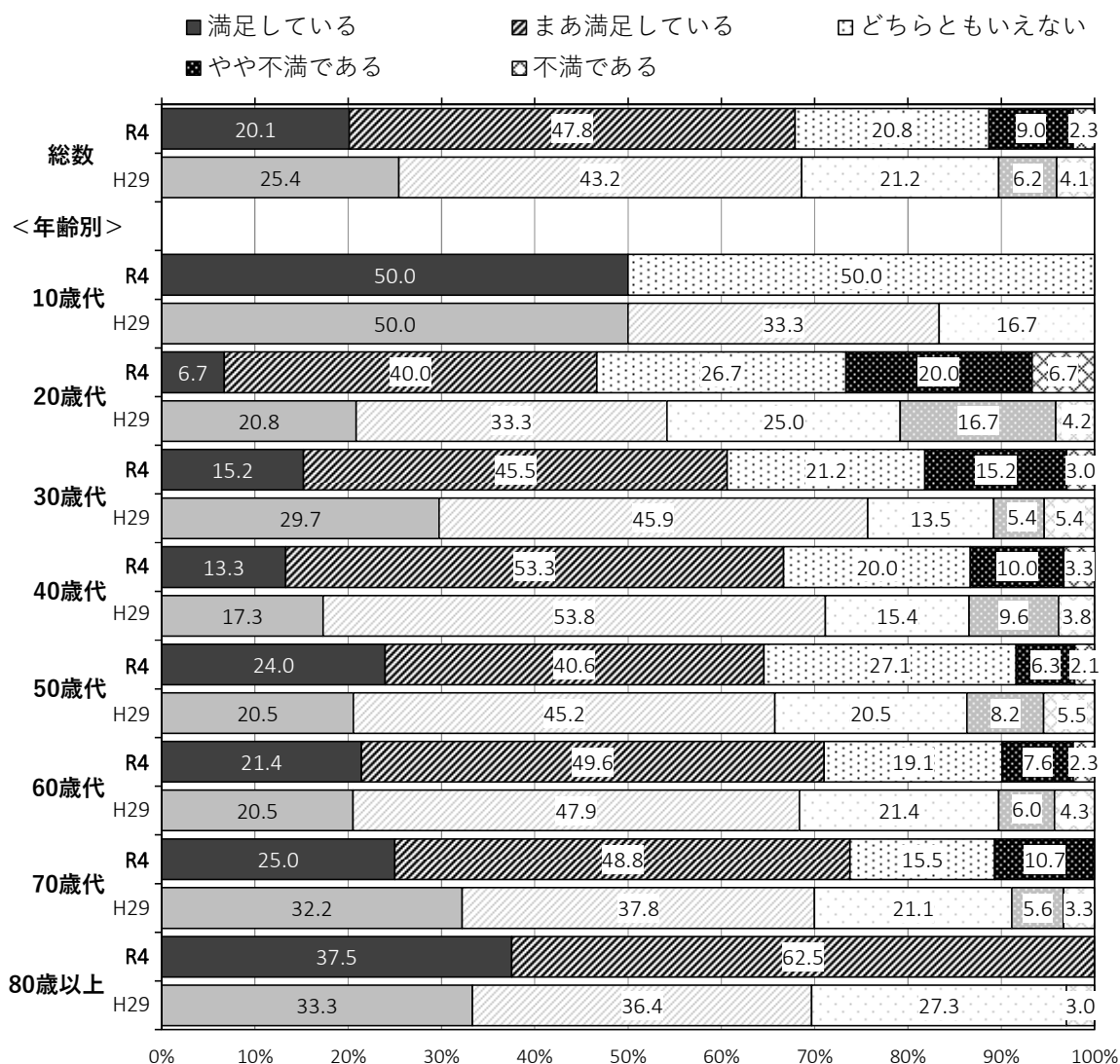
- ・「そう思っている」と答えた人の割合は87.3%であり、前回調査から0.5ポイント増加した。
- ・30歳代以上では「そう思っている」と答えた人の割合は8割以上を占めた。また、20歳代は、「そう思っている」と答えた人の割合は66.7%と前回調査から12.5ポイント増加した。



6. 生活の満足度

問 23 あなたは、今お住まいの地域を総合的にみて、どの程度満足していますか。(1つだけ○印)
また、その理由を下の枠内に記入してください。

- ・「満足している」及び「まあ満足している」と答えた人の割合を合わせた『満足度』は67.9%であり、前回調査の68.6%から0.7ポイント減少した。
- ・50歳代以下の年代で『満足度』が減少しており、特に、20歳代においては46.7%と満足度が低い一方で、60歳代以上の年代では『満足度』が7割を超えた。
- ・旧西土佐村、旧窪川町、檮原町の『満足度』が高い傾向が見受けられた。



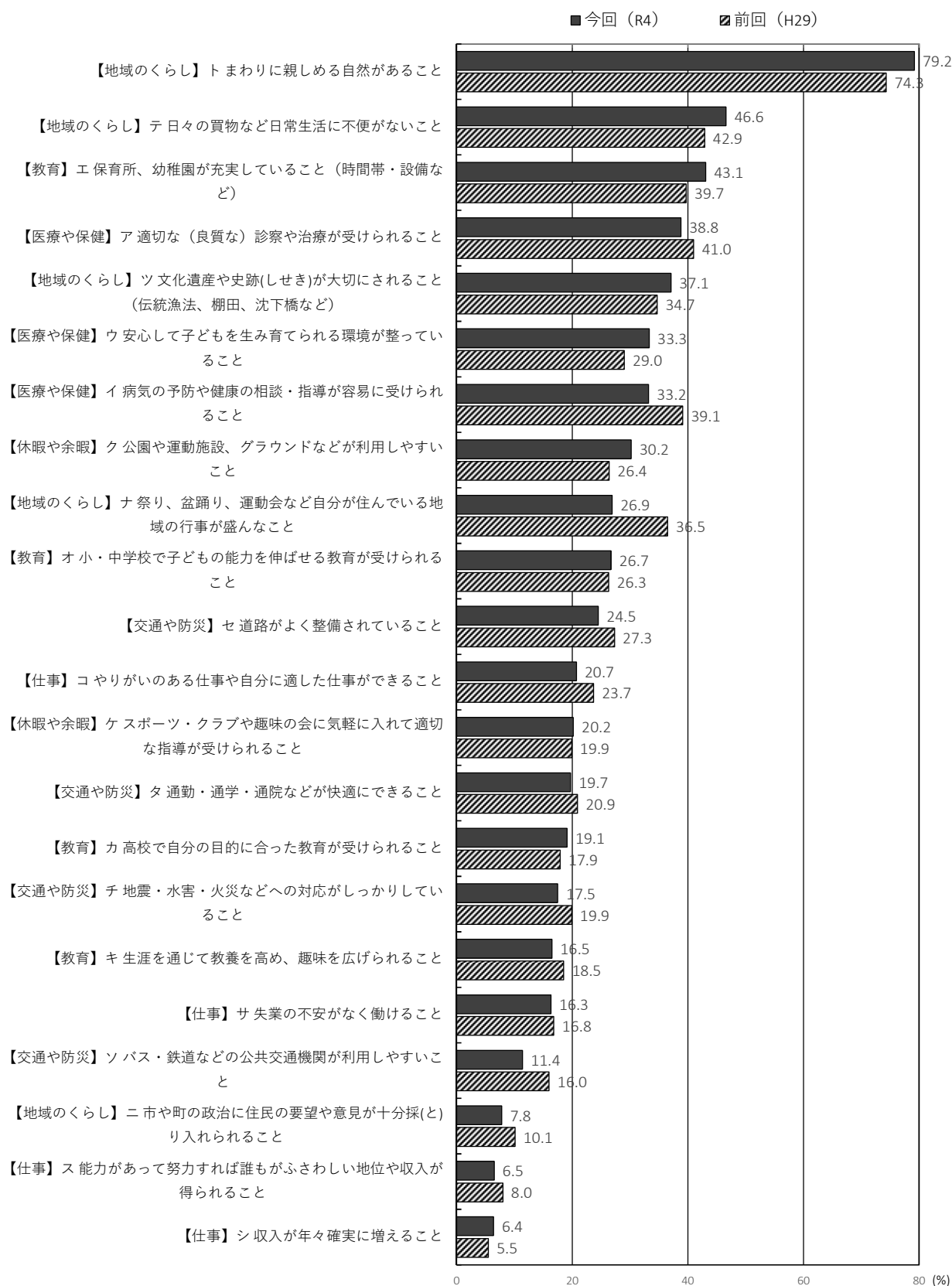
<居住地別>

単位=(%) 網掛け=高い割合		満足している	どちらともいえない	不満である
上流域	檮原町	72.4	17.2	10.3
	旧東津野町	54.6	36.4	9.1
	旧大野見村	42.9	57.1	0.0
中流域	旧窪川町	74.0	14.8	11.1
	旧大正町	56.3	37.5	6.3
	旧十和村	47.4	47.4	5.3
下流域	旧西土佐村	76.2	14.3	9.6
	旧中村市	69.5	18.5	12.0


問 24 あなたは、今お住まいの地域に関して、どの程度満たされていますか。ア～ニのあてはまる番号に1つずつ○印をつけてください。

- ・「まわりに親しめる自然があること」と答えた人の『満足度』（「十分満たされている」＋「かなり満たされている」）は、79.2%（前回：74.3%）で、前回調査より4.9ポイント増加した。
- ・『満足度』の低い項目は、自治体への要望や意見の反映、安定した仕事や地位や収入、公共交通機関の利便性に関して前回調査より不満な状況であった。
- ・80歳以上は全22項目の『満足度』の平均値が52.2%と最も高く、一方で、20歳代では全22項目の『満足度』の平均値が17.6%と最も低く、特に「適切な（良質な）診察や治療が受けられること」の『満足度』は13.3%と全体の『満足度』38.8%から25.5ポイント下回り、その他の年代と比べて満足度が低いことがわかる。また、10歳代～20歳代においては、安定した仕事や地位や収入、公共交通機関の利便性に関して『満足度』が0.0%となっており、特に不満があることがうかがえた。
- ・上流域は「保育所、幼稚園が充実していること（時間帯・設備など）」と「安心して子どもを育てられる環境が整っていること」と「病気の予防や健康の相談・指導が容易に受けられること」の『満足度』が5割以上と高い一方で、「日々の買物など日常生活に不便がないこと」と「適切な（良質な）診察や治療が受けられること」の『満足度』が2割程度とその他の流域より低くなった。
- ・中流域は「安心して子どもを育てられる環境が整っていること」と「病気の予防や健康の相談・指導が容易に受けられること」の『満足度』が2割程度とその他の流域より低いことがうかがえた。
- ・下流域は「日々の買物など日常生活に不便がないこと」の『満足度』が5割以上とその他の流域より高くなった。

「十分満たされている」と「かなり満たされている」
を合わせた【満足度】の割合



<第4章 結果の概要>

単位=(%) 網掛け= 	「十分満たされている」と「かなり満たされている」を合わせた【満足度】の割合												
	全体 (R4)	全体 (H29)	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	上流域	中流域	下流域
【地域の暮らし】ト まわりに親しめる自然があること	79.2	74.3	100.0	60.0	81.8	80.7	80.2	80.7	78.5	75.0	68.9	80.0	80.4
【地域の暮らし】テ 日々の買物など日常生活に不便がないこと	46.6	42.9	0.0	26.7	42.5	42.1	40.6	49.3	59.8	75.0	17.4	45.3	52.6
【教育】エ 保育所、幼稚園が充実していること (時間帯・設備など)	43.1	39.7	50.0	40.0	48.5	39.0	33.0	43.9	56.5	71.5	63.6	42.3	39.9
【医療や保健】ア 適切な(良質な)診察や治療が受けられること	38.8	41.0	50.0	13.3	36.3	28.4	30.9	43.5	53.1	75.0	23.9	37.0	42.1
【医療や保健】ウ 安心して子どもを産み育てられる環境が整っていること	33.3	29.0	50.0	26.7	42.4	37.5	28.1	33.1	29.5	62.5	52.2	24.8	33.8
【医療や保健】イ 病気の予防や健康の相談・指導が容易に受けられること	33.2	39.1	50.0	20.0	40.6	19.5	20.6	39.4	48.8	75.0	51.1	24.1	34.0
【仕事】サ 失業の不安がなく働けること	16.3	16.8	0.0	0.0	15.2	19.3	16.4	15.2	17.7	50.0	10.7	20.1	15.9
【交通や防災】ソ バス・鉄道などの公共交通機関が利用しやすいこと	11.4	16.0	0.0	0.0	3.0	5.7	7.2	15.0	23.7	25.0	2.2	14.1	11.8
【地域の暮らし】ニ 市や町の政治に住民の要望や意見が十分採(と)り入れられること	7.8	10.1	0.0	6.7	0.0	8.0	6.3	11.0	6.8	14.3	14.9	6.2	7.1
【仕事】ス 能力があつて努力すれば誰もがふさわしい地位や収入が得られること	6.5	8.0	0.0	0.0	9.1	7.9	7.3	6.6	2.8	20.0	6.5	9.1	5.5
【仕事】シ 収入が年々確実に増えること	6.4	5.5	0.0	0.0	3.0	12.5	8.3	4.8	1.5	16.7	4.3	8.3	6.2
『満足度』の平均値	26.4	27.0	22.7	17.6	26.4	24.2	23.6	27.3	31.0	52.2	26.9	24.9	27.1